

注目

今日は、藤井篤子さんが介護保険制度の中の訪問介護に注目し、より良い介護とは何かを考えます。

平成十二年度より介護保険が始まり四年が経過しました。

訪問介護サービス提供事業所は市内に十一カ所あり、百人以上の人がホームヘルパーとして活躍されています。

訪問介護には、身体介護、生活援助などがあり、笠岡市の要介護認定者の48・8%、一、一七六人（平成16年3月31日現在）が利用しています。

今回は、住み慣れた地域や家庭で継続して生活ができるようにするための訪問介護について考えてみたいと思います。



高齢の要介護者が心地よく生活するために

介護を必要とする高齢者が心地よく生活できるためには、高齢者をとりまく人々が協力し、連携を図りながら支えていく必要があると思います。そのためには、どのようなことが大切なのでしょう。

笠岡市訪問介護事業所サービス提供責任者の浅野晴美さんからお話を伺うことができました。

「心を支える」

三十分という短い時間の中で、トイレの介助、おむつ交換などをしてしているとあっという間に予定の時間が過ぎてしまいます。そんなあわただしい中で大切にしていることは、

ちょっととした気配りや高齢者への声かけです。介護とは、ただ食事の世話や身辺の介助をすればよいというものではなく、その介護という行為を通して「心を支える」という気持ちでヘルパーにとつて最も大切なことだと思います。



信頼関係の構築

食事の支度では、その人にあった味付けをするとか、食べやすく調理するなど高齢者の立場を考え、時には好みの味付け方法を尋ねたり、さまざまな調理方法を教えてもらったり、一緒に調理をしたりします。全てしてあげるのではなく、人生の先輩として個人を尊重しながら接し、それを日々積み重ねることによって信頼関係が築いていけるのだと思います。

帰り際に「明日も来てね。待っているから。」と言って

くださる言葉にヘルパーとしてのやりがいを感じると共に、信頼関係の大切さを改めて実感します。と話してくださいました。ヘルパーとして何年間も訪問介護をされている浅野さんの暖かい笑顔に介護の原点を見ることができました。

家族とヘルパーさんとのより良い関係づくりのために

実際にヘルパーの方にお世話になっている家族の一人として、この介護保険をとってもありがたい思い、感謝しています。また、ヘルパーの方のご苦労、大変さに頭が下がります。ただ、今後、より一層良い関係を築いていくためにはどのようなことが必要なのか私なりに考えてみました。

事業所間の横のつながり

市内には十一の事業所があり、各事業所ごとに工夫し対応されていますが、事業所間の横のつながりというものが

このページのご意見・ご感想をお待ちしています。また、「市政についてのイラ立ち」があれば併せてどうぞ。お便り：〒七一四一八六〇一 笠岡市中央町一ー一 まちづくり推進課モニター係

☎ 21110 FAX 2180

最後に

介護を必要とする高齢者と、その周りの人々が円滑な人間関係の中でお互いに信頼し合い、支え合いながら生活していくことが大切だと思います。

「この世に生まれてきて幸せだった。ありがとう。」そう言ってもらえる介護を目指してがんばりましょう！